

風の中の牝鶏 (1948)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 84分
初公開日 1948/09/17
映倫 G

【解説】

小津安二郎が斎藤良輔とともに書いた脚本を監督し映画化。主演に佐野周二と田中絹代を迎え、戦争により危機に陥る夫婦の姿を描いた。田中絹代の「階段」のシーンが強い印象を残す。

夫を戦地へ送り出した時子は、苦しいながらも子供と二人で生活していた。時子は友人の秋子に着物を預け、同じアパートに住む織江に買ってもらうことで生計を立てていた。ある日、息子の浩が病気になり入院してしまう。治療で浩は回復するが、時子には治療費を払うことができない。織江に相談した時子は、一夜だけ体を売ることによって収入を得てしまう。浩は無事に退院するが、数日後、夫の修一が突然帰ってきた。修一は浩の入院を知り、その治療費について時子に問い詰める。

【クレジット】

監督 小津安二郎
製作 久保光三
脚本 斎藤良輔
小津安二郎
撮影 厚田雄春
美術 浜田辰雄
衣裳 斎藤耐三
編集 浜村義康
音楽 伊藤宣二
出演 佐野周二 雨宮修一
田中絹代 時子
村田知英子 井田秋子
笠智衆 佐竹和一郎
坂本武 酒井彦三
高松栄子 つね
水上令子 野間織江
文谷千代子 小野田房子
長尾敏之助 医師
中川健三 巡査
岡村文子 女将
清水一郎 古川
三井弘次 男A
千代木国男 男B
谷よしの 看護婦A

| | |
|-------|---------|
| 泉啓子 | 看護婦B |
| 中山さかえ | 看護婦C |
| 中川秀人 | 時子の息子浩 |
| 長船フジヨ | 彦三の娘あや子 |
| 青木放屁 | 彦三の息子正一 |